大阪市立大学の研究者の世界

第4回

ACADEMIC CAFE

2020 12.16 Wed Zoom開催

13:00～15:00

参加方法：Zoomウェビナーにて開催（URLより参加）
※URL・パスコードはポータルサイトに掲載します。

テーマ：最後のパンデミック？

Episode1. パンデミックと未来がやってきた！

全ての生物はその進化において感染症から大きな影響を受ける。遺伝的に画一でありながら地球上で繁栄を遂げた巨大動物、ヒトの場合はなおさらである。ヒトはこれまで幾度となくパンデミックを経験し、多くの犠牲を払いながら生き延びてきた。しかし今回はこれまでと異なる。なぜなら現在の私たちには、20世紀では夢物語だった、生命に関する理解、技術、データがあるからだ。人類初の、そしてひょっとすると最後になる"未来のパンデミック"が今、進行しつつある。

宮田　真人
理学研究科　教授

Episode2. パンデミックをマネジする

明治維新とコロナ禍とかけて、日本の近代化を解く。その得意技とは、リスクとクライシスのマネジメントを畳みかけ、そして革新したこと。ここで大胆な仮説を披露：日本において近代化の早期の達成は、防疫、公衆衛生、都市計画を始めとするリスクマネジメントに長けていたこと。頻発する災禍などに対して、治水や復興計画、社会政策であるクライシスマネジメントが迅速であったこと。ところが、戦争というものが、この両マネジメントを皮肉にも加速した。いま、このコロナ禍に歴史に学び、学知を生かしパンデミックをマネジする。

水内　俊雄
都市研究プラザ　教授

人が集まり4大文明を築き始めたとき、都市は感染症の培養器になった。生き残り免疫が備わった都市住民は、免疫のない周辺地方の人々に対し圧倒的に優位な立場を得て屈服させていった。感染症が歴史を作り、文明が感染症に場を与えた。そんな人と感染症の行く末について、最先端の細菌学者は技術による制御を論じ、社会科学者は政治・社会論的に流れを解釈しようとする。コロナ禍を生きる私たちには、必然的にエキサイティングな２時間となる。

ファシリテーター
西川　禎一
特任教授（シニアURA）

申込不要

※後日Webclassにて動画配信予定

All religions, arts and sciences are branches of the same tree.
Albert Einstein

われわれは、すべてのものを包括する統一的な知識を求めようとする熱望を、先祖代々承け継いできました。学問の最高の殿堂に与えられた総合大学（university）の名は、古代から幾世紀もの時代を通じて、総合的な姿こそ、十全の信頼を与えられるべき唯一のものであったことを、われわれの心に銘記させます。しかし、過ぎる100年余の間に、学問の多種多様の分枝は、その広さにおいても、またその深さにおいてもますます拡がり、われわれは奇妙な矛盾に直面するに至りました。われわれは、今までに知られてきたことの総和を結び合わせて一つの全一的なものにするに足りる信頼できる素材が、今ようやく獲得されはじめたばかりであることを、はっきりと感じます。ところが一方では、ただ一人の人間の頭脳が、学問全体の中の一つの小さな専門領域以上のものを十分に支配することは、ほとんど不可能に近くなってしまったのです。

この矛盾を切り抜けるには（われわれの真の目的が永久に失われてしまわないようにするためには）、われわれの中の誰かが、諸々の事実や理論を総合する仕事に思いきって手を着けるより他には道がないと思います。

シュレーディンガー；岡小天; 鎮目恭夫 訳.
「生命とは何か－物理的にみた生細胞」
まえがきより抜粋

知's SEEDS
大阪市立大学

大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

お問い合わせ
市立大学事務局　大学運営部研究支援課
TEL：06-6605-3466（内線 3466）